



船内消毒マニュアル

～ 感染をSTOP!! ～



井本商運株式会社

新型コロナウイルス対策本部 事務局

船内消毒マニュアル ～はじめに～

壹

- ・ 対象者（疑似症者等、罹患者）は好んでそうなった訳ではなく、誰もが感染する可能性があることを十分留意すること。

貳

- ・ 一番辛い思いをしているのは、当人であるということを忘れないこと。
- ・ 差別的意識や中傷は「しない、させない。」

参

- ・ 仲間意識から、対象者が傷付かないように遠慮がちに対応する可能性があるが、ここはプロの船乗りとして、最悪な状況とならないよう割り切って対応すること。

船内消毒マニュアル ～基本的な考え方～



このウイルスは飛沫感染、接触感染が確認されてるが、**空気感染**の可能性も視野に入れること。



疑わしきは、ヒトからヒトの感染機会は抑えられている「はず」なのに感染者が後を絶たない。つまり、**ヒトからモノ** → **モノからヒト**の感染経路が考えられていること。



よく比喻される対象として「**唐辛子**」がある。イメージとしては、唐辛子を触った手で顔や目を擦るとヒリヒリする。それをウイルスに例えて手洗いすること。



船内消毒マニュアル ～感染サイクルを断ち切る為に～

対象者をお願いする大事なポイント

対象者の状態により、可能であれば、自身の居住スペースで行ってもらう大切なことがあります。

注) 下船準備の段階を想定しております。

- 1) ダンパー（空調）吹き出し口を閉める。
（通気遮断：部屋からエアロゾル状のウイルスを出さない。）
- 2) 布製品（ベットシーツ、掛け布団及びカバー、枕及びカバー、カーテン、タオル、その他触れた可能性のある布製品）をビニール袋に入れ、空気を抜いた上、口をしっかりと縛り、そのまま部屋に放置する。
- 3) 乗組員との連絡は、必ず船内電話又は携帯電話を介して行うこと。
- 4) 下船間際まで、極力部屋から出ないこと。

船内消毒マニュアル ～感染サイクルを断ち切る為に～

船長にお願いする大事なポイント

感染リスクの高い区域と、安全と思われる区域を明確に分けテープや掲示物などで見える化を図る「ゾーニング」を行い、下記の指示を船内放送等で伝えて下さい。

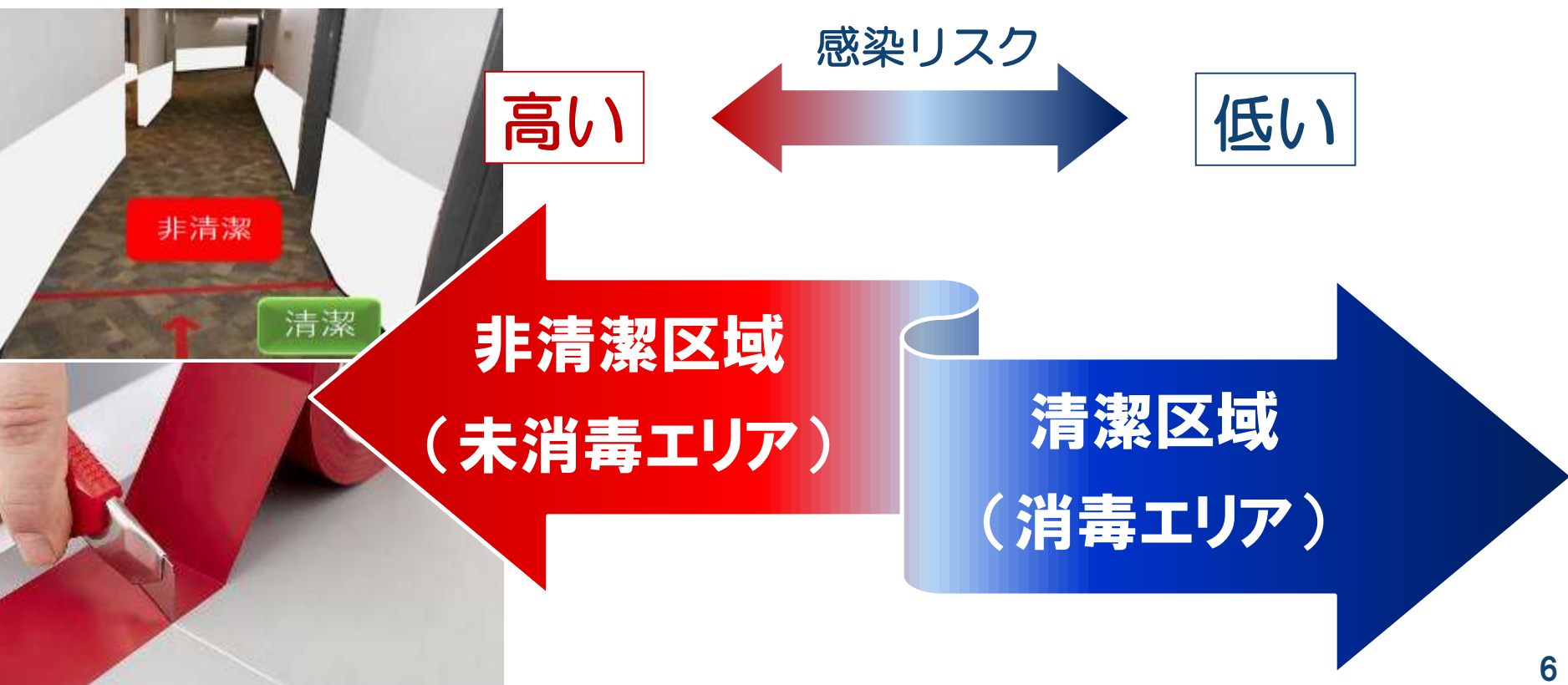
注) 対象者が下船後（未消毒時）の対応を想定しています。

- 1) 乗組員は居室から出る際、マスクを着用の上、意識的な手洗い、うがいを「定期的」に行う。
※ 居室に戻る際は必ず手洗いを行うこと。
- 2) 乗組員は不要不急の居室外行動は避ける。また、他の乗組員の居室には立ち入らない。
- 3) 外通換気を講じること。
※ 空調吸気を外気100%とし、尚且つ可能なれば、居住区の外部へ通じるドアを開放し、換気を行うこと)
- 4) 対象者の部屋には施錠するなど、誰も立ち入らないよう対策を講じる。

船内消毒マニュアル ～ゾーニング(安全区画の仕分け)～

ゾーニングって何？

一定のエリアを感染リスクの高いエリア(非清潔区域)と消毒済など対策を施している安全なエリア(清潔区域)に分類することである。※具体的にはテープや衝立などで見える化を行う。



船内消毒作業 ～消毒液の効果～



それはどこに、どんな効果があるのか
「次亜塩素酸ナトリウム」(ハイター)

消毒対象

- 衣服・布製品、物全般、壁などの環境
- △ 人体にはあまり適さない
(塩素による臭気等刺激性、要換気)
- △ 金属への腐食性もある(特に金属部は水拭きが必要)
- △ 漂白性がある(余裕があれば、消毒後に水拭き)

効果

- ◎ ほとんどの細菌、ノロウイルス、コロナウイルス
(物の消毒に極めて有効である)



船内消毒作業 ～消毒液の作成～

屋内の消毒・除菌には、**次亜塩素酸ナトリウム**が有効です。
次亜塩素酸ナトリウム液は、塩素系漂白剤等を希釈して作ります。

- 一般的に「塩素系漂白剤」(塩素濃度約5%)として販売されています。
- 製品の記載濃度をもとに、用途に応じ薄めて使用してください。

用途	濃度	希釈方法
ドアノブ・ 手すり等の 消毒 	0.1% 0.5%	500mlのペットボトル1本の水に 塩素系漂白剤 10ml 入れる。 (ペットボトルのキャップ 2杯分) 

消毒方法

ペーパータオル等に十分に薬液を含ませて拭いた後、
水拭きしてください。(濡れている場合には水分を拭き取った後行う。)

- ・手指の消毒には絶対に使用しないでください。
- ・手荒れの可能性があるため、直接触れないよう
ゴム手袋等を着用してください。
- ・使用する際は十分に換気してください。
- ・消毒対象の材質により、使用方法が異なることがありますので
製品に記載された「使用上の注意」をよく読んで使用してください。



消毒箇所：

ドアノブ、手すり、パソコンのキーボード、船内電話の受話器、椅子背もたれ、肘掛け、引き出しの取手、ボールペンなどに至るまで、**対象者が接触した可能性があるモノ**は全てを丁寧に拭き取る。

船内消毒作業

～対象者居室の施錠及び目張り～



対象者が下船後は、保護具着用の上、居室を施錠する。

72時間でウイルスは死滅（条件による）するとの消毒業者の情報であり、念のため4日間は施錠したままとする。

また、前述の通り、通気しないよう室内のダンパー（空調）は、対象者に必ず、事前に閉鎖させる。

その上で、ドアを目張りすること。

4日間経過した後、室内の消毒時には上記同様の防疫保護具を着用の上、対応すること。



① 対象者の下船後、居室は施錠したまま4日以上誰も入ってはならない。
(ウイルスが死滅するまで放置)

② 消毒液準備
次亜塩素酸Na(ハイター)
500mlの水:キャップ2杯のハイターを目安に0.1%濃度液をバケツ半分ぐらい作成。

③ 保護具準備
ゴーグル、不織布ツナギ(又はカッパ、ヤッケ)使い捨てゴム手、サージカルマスク(無い場合は2枚重ねで使用、フェイスマスク、長靴※肌の露出を避ける。

④ 保護具着用の際は手を消毒してから行う。
袖はゴム手の中に入れる。
自身のみではなく、必ず他の者に着用を確認してもらう

⑧ 拭き取り(拭き方)
白ペンキや黄ペンキの塗り方と同様。同じ方向に拭き、返しをしない。ウイルスの再着を避ける。

⑦ 拭き取り(要領)
1~3㎡毎に消毒液を入れたバケツで洗う→拭く→洗う これらをこまめに繰り返す。

⑥ 拭き取り(箇所)
手すり、ドアノブ、椅子(背もたれ、肘掛け)テーブル、トイレ(念入りに)浴室、甲板部(船橋)機関部(制御室)

⑤ 対象者の部屋のドアの目張り
対象者の部屋のドアをガムテープなどで目張りする。中の空気が極力出ないよう。
ドア下部の通気口も塞ぐ。

⑨ 外通換気
空調の吸気を外気100%とし、各フロアのドアを開け、換気を行いながら拭く

⑩ 保護具の脱衣方法(外部)
二人一組で先にツナギ(又はカッパ)→ゴム手を消毒→ゴーグル→ゴム手を消毒→ゴーグル他装具→最後にマスク

⑪ 消毒で使用したものは捨てるものと再使用のものと分け、それぞれビニール袋に入れ、口を縛り、外の飛ばない所に放置(4日以上)

⑫ ウイルスは72時間以上で死滅すると思われる(消毒業者談)
確実性を高める為、4日以上は居室及び廃棄物は放置する。
※4日経過後、保護具着用の上、消毒作業を行う。

船内消毒作業 ～保護具着用～



左の図は「なとり(7,390トﾝ)」乗組員に協力頂いた「罹患者発生時における想定訓練」での一コマである。

不織布の使い捨てツナギ(ペンキ吹き付け用やノロウイルス対策用でも可)を着用している。

※無い場合は**カッパ**又は**ヤッケ**でも可。

その他、保護具として長靴、ゴーグル、ゴム手(使い捨て)、マスクを着用している。

さて、これから消毒を行うに際し、万全と言えるだろうか。

皆で考えてみよう。

船内消毒作業 ～保護具着用(注意点)～



① 肌の露出を防ぐ

- おでこが出てしまっている。
後方の者は不織布ツナギのフードの
ゴムを絞り、極力露出を減らしている。
(肌の露出防止)
- 袖がゴム手の外側に出てしまっている
(保護具内側の清潔部分をキープ)

船内消毒作業

～接触個所の拭き取り方法～

拭き取りのポイントとしては...

- ◆ 一方方向に満遍なく拭き取り「返し」をしない。
※ウイルスの再付着を防止する。
- ◆ 1㎡～3㎡毎に洗いながら、拭き取りを繰り返す。(こまめに洗う。)



一方方向に拭き取る

布巾(使い捨て)
を消毒液に浸し、
しっかり絞る

消毒液で洗う
→絞る

1㎡～3㎡
拭く

こまめに拭く、
洗うを繰り返す

1㎡～3㎡
拭く

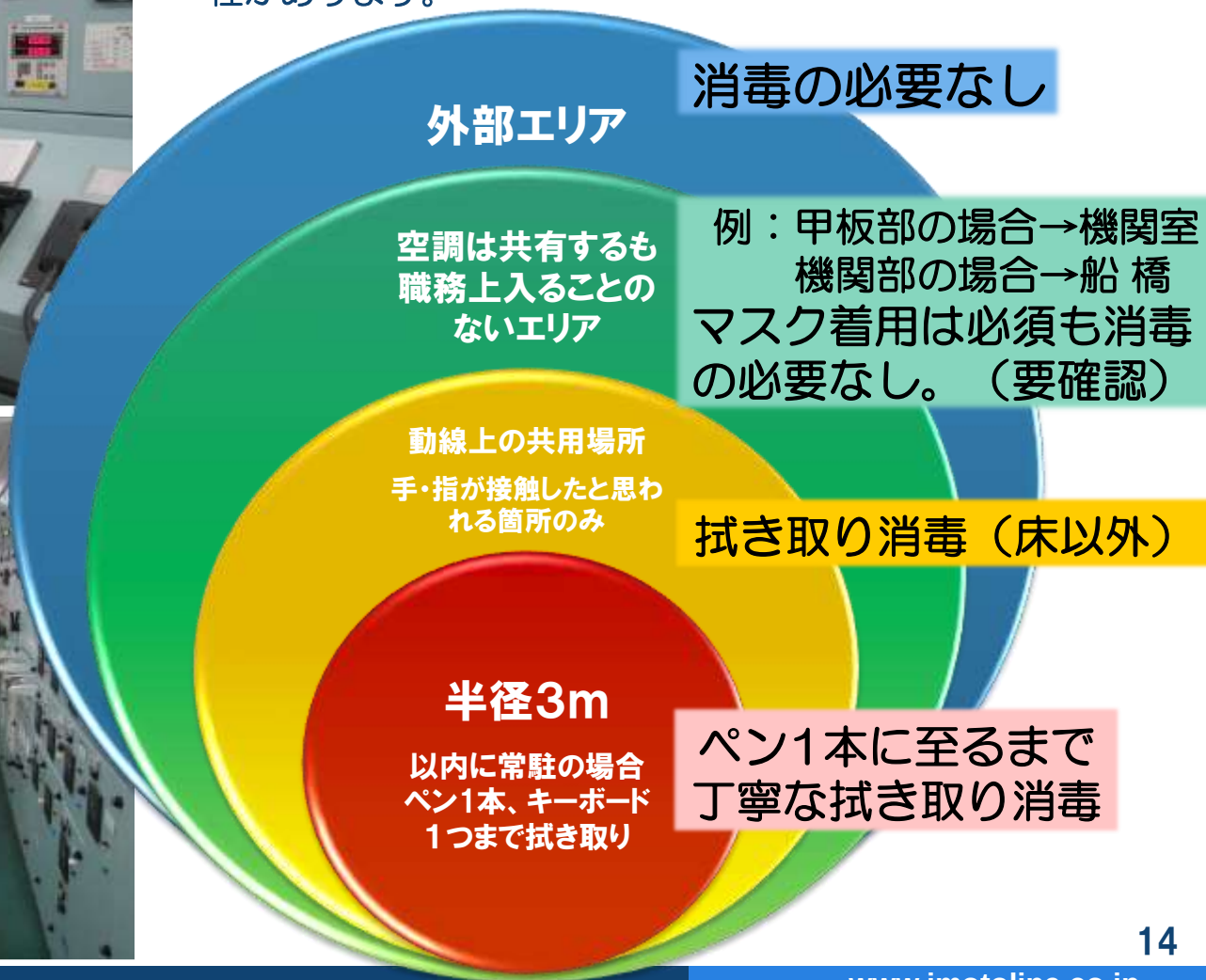
消毒液で洗う
→絞る

船内消毒作業 ～消毒範囲について～



下図は消毒レベルのインジケータです。

※ あくまで目安であり、船型や乗組員運用に応じて変更の可能性あります。



船内消毒作業 ～保護具の脱ぎ方(最重要)～



1人で脱ぐ場合

ガウンの場合は後ろのマジックテープ又は紐を外す。ツナギの場合は前のチャックを開ける。
(上図：いずれも外側から掴んで脱ぐこと。)

清潔面である内側に絶対に触れないよう、引っ張りながら脱ぐ。脱いだら直ちに廃棄袋へ。



2人で脱ぐ場合

介助者がいる場合は、必ず後ろからアプローチする。(咳やくシャミなど突発的な飛沫を避ける為)

介助者は、必ず外側を掴んで脱がせ、清潔面である内側には、絶対に触れないよう細心の注意を払うこと。

※ 陸上自衛隊東部方面隊 公開資料 抜粋

船内消毒作業 ～保護具の脱ぎ方(マスク・ゴム手の外し方)～



着脱前は消毒して行うよう習慣づけること。

マスクは最後に外す。

ゴム手を外す際は、ゴム手の外側を掴み、外側と外側でクルッと丸めて先端を持ち、ビニル袋へ廃棄すること。

マスクを着用したままビニル袋の口をしっかりと閉める。

最後に、素手となった手を、再度消毒を行い、マスクの紐の部分をつまみ、別の廃棄袋へ。廃棄袋は飛ばないように外部へ。



